

## 5. 日本の創造に向けたグローバル人材育成 ～ビジネスの現場から見たグローバル人材（講演骨子）

三菱商事株式会社取締役会長 小島順彦委員

### 1. ダボス会議（World Economic Forum 年次総会）

- ・2012年1月24～29日 スイス・ダボスで開催（政府首脳含め 参加者2,750名）
- ・テーマ「The Great Transformation; Shaping New Models」
- ・危機からの早急な脱却に向けた努力の必要性の共有
- ・日本の存在感
  - 70名弱の参加者（閣僚クラスや JICA 理事長、IAEA 事務局長他の参加）
  - 共同議長に長谷川経済同友会代表幹事
  - ジャパン・ナイト、ジャパン・ディベート

### 2. 国際社会における日本の存在感の低下

- ・政治（頻繁な首相交代）、経済（マクロ経済失速、急速な円高の進展）、教育（留学生の減少）
- ・グローバル人材育成は日本の喫緊の課題、他方、大学のグローバル化は進んでいるのか
- ・若者の海外志向：日本から海外の大学等高等教育機関への留学者数の減少傾向（例：米国への留学生数の減少－日本は1997年度に比べ2009年度までに半減）

### 3. 教育を巡る日本の課題

- ・海外との接点を持つとしない学生が多い
- ・大学教育だけではなく、人格形成の素地となる初等・中等教育の在り方が重要
- ・チャレンジ意欲の高い若者を育てる為に、家庭での教育でも取り組むべき点があろう
- ・学生のみならず、教師もグローバル化への備えが必要（グローバルな動静に目を配り、情報を入手し伝授することができなければ、学生は啓発されない）

### 4. 個人の経験から思うこと

- ・グローバル人材 ≠ 英語力
  - ・自分の意見を持つこと
  - ・自分の意見を自分の言葉で伝えようとする姿勢
  - ・目標に向かって食欲に努力する精神的逞しさ
- ↓
- ・英語三原則（英語を上手く話す必要はない、英語が話せるから仕事出来る訳ではない、自分の意見を言う事が大切）

## 5. グローバル人材の定義（「グローバル人材育成テーブル」より）

- ・自分の意見をしっかりと持って、国際的な舞台で物怖じせずに議論と主張ができる人材
- ・コミュニケーションを通じて、世界の人々と信頼関係を築くことができる人材
- ・多様な価値観を理解・尊重するとともに、自国の文化や歴史に明るく、等身大で説明できる人材
- ・「人に尽くす、社会に尽くす、国に尽くす」、更には「国際社会に貢献する」という高い志を有す人材

## 6. 真の教養教育の必要性

- ・「志の教育」を行うこと
  - 「人に尽くす、社会に尽くす、国に尽くす」という思想
- ・「社会実践学」の導入
  - 産業人等による「出張講義」のシステム化
  - 企業、官僚の OB 等、シニア層の活用
- ・海外に対する関心を深めること
  - 「外から見た日本」という視点
  - 多様な価値観に触れる機会の創出  
(若い時の意識変化は成長の機会となる → きっかけを与える重要性  
事例：JICA 海外青年協力隊、当社グローバル研修生（海外トレーニー）)

以 上